地域課題解決プログラム

盛岡市民のお墓に関する意識について

岩手大学 人文社会科学部 人間文化課程
行動科学プログラム３年
佐藤 実花
[依頼元]盛岡市保健福祉部企画総務課
[担当教員]竹村祥子

お墓について

- もともと…
～明治時代まで⇒個人墓、夫婦墓が主流
明治時代以降⇒「家」単位の墓へ（血縁によるつながり）

- 管理形態
  - ・公営墓地：市町村が管理している墓地
  - ・公益法人墓地：公益法人によって管理されている墓地
  - ・宗教法人墓地→宗派・宗旨が自由な墓地
    →信者・檀家のみが使用する墓地
  - ・公葬地：地元住民が使用・管理する墓地

お墓について

- 形態
  - ・区画墓地：一家一区画の従来の形式のお墓
  - ・合葬墓：家族に限らず多数の方を一つのお墓に納骨するお墓
  - ・納骨堂：骨壺に入れたまま遺骨を安置するお墓
  - ・樹木葬墓地：墓石の代わりに樹木を墓標とするお墓。
    合葬形式や個別型、地下の区画に遺骨を
    分けて埋葬する形式もある。

盛岡市内のお墓について

- 盛岡市の公営墓地
  - 新庄墓園：普通墓地（区画墓地）と芝生墓地、無縁塔
  - 青山墓園
  - 古川墓園

※現在、新庄墓園と古川墓園が申込み可

新庄墓園の無縁塔：<u>収容スペースがそろそろ限界に</u>

・H25「市民意識調査」、H30「新庄墓園利用者向けアンケート」

合葬式共同墓や納骨堂
「お墓を継ぐ人がいないなどの問題に対応するために必要」：**72.8%**

調査目的

家族の小規模化
人口の流動

新たな墓形態の
出現

墓問題：個人の問題、家族の問題、地域や日本社会の問題が根底に
⇒複雑で多様

★盛岡市保健福祉部　企画総務課
これからの市営墓園のあり方を検討するために
盛岡市民のお墓についての意識を明らかにしたい。

調査概要

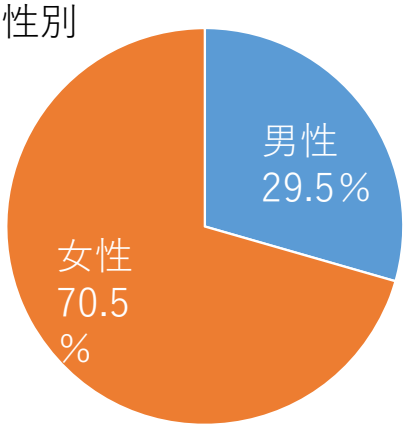
（1）調査方法
調査票調査：「市民用」と「大学生用」との2種類
盛岡市民・盛岡市職員へは、主に盛岡市職員3名によって
機縁法で配布・回収

（2）調査協力者
岩手大学・岩手県立大学生：有効回答票数　148
盛岡市民：有効回答票数　146
盛岡市職員：有効回答票数　203

（3）調査時期
2019年6月下旬　調査票配布・回収

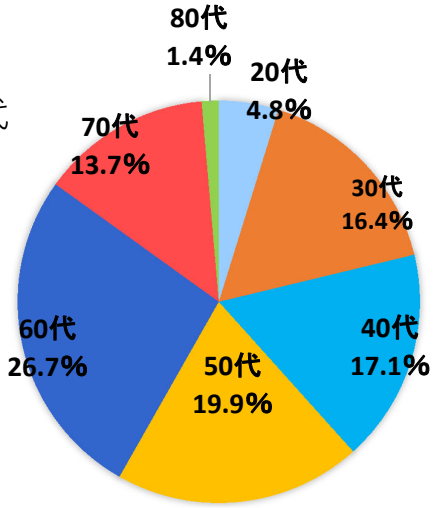
1.市民対象調査の基本属性

（1）性別



	度数（人）	割合
男性	43	29.5％
女性	103	70.5％
計	146	100.0％

（2）年代



	度数（人）	割合
20代	7	4.8％
30代	24	16.4％
40代	25	17.1％
50代	29	19.9％
60代	39	26.7％
70代	20	13.7％
80代	2	1.4％

（4）質問紙の構成

＜大学生＞
1.フェイスシート（性別、学部、年齢、出身地）
2.家族構成について（4項目）
3.お墓の有無と形態、お墓参りについて（10項目）
4.お墓の希望について（5項目）
5.お墓の実態・近年の新しいお墓について（9項目）
6.お墓への意識について（8項目）
7.自由記述

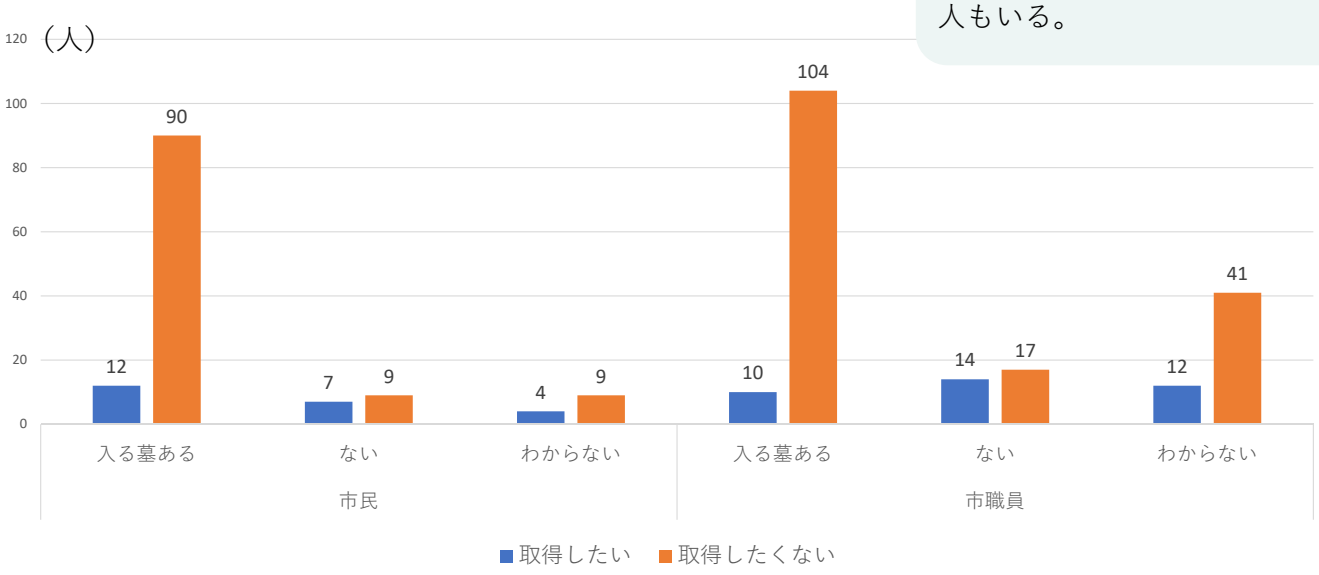
＜市民・市職員＞
1.フェイスシート（性別、年齢、居住地域、出身地）
2.家族形態、結婚経験、子の有無について（6項目）
3.お墓の有無と形態、お墓参りについて（14項目）
4.お墓の希望について（7項目）
5.近年の新しいお墓について（4項目）
6.お墓への意識について（8項目）
7.現在の経済状況について（2項目）
8.自由記述

◎本発表では盛岡市民の意識を中心に他のデータと比較しながら報告する。

参考
・総理府（1990）「墓地に関する世論調査」
・槇村久子（1992）「家族形態及びライフスタイルの変化と墓地のあり方」
・森謙二（1998）「墓地に関する意識調査」、（2005）「死者と追悼をめぐる意識調査,死者と追悼をめぐる意識変化―葬送と墓についての総合研究」

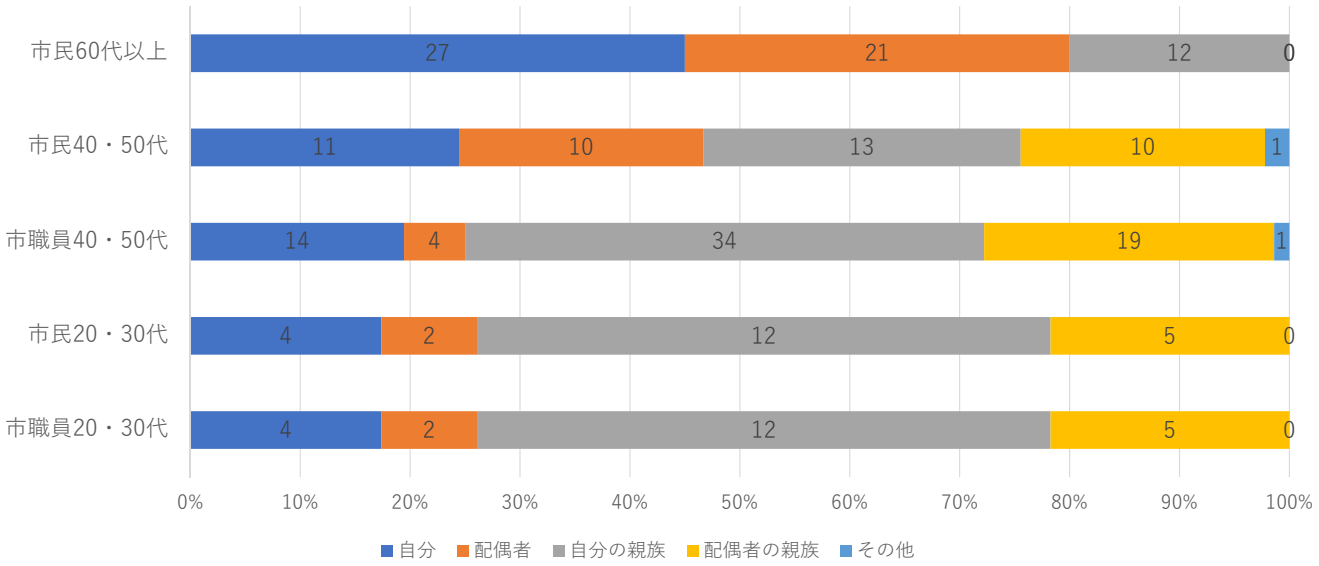
入る墓の有無と新たな墓を取得したいか

入る墓があっても、新たにお墓を取得したい人、入るお墓がなくても、お墓を取得したくない人もいる。



自分が入るお墓の墓守

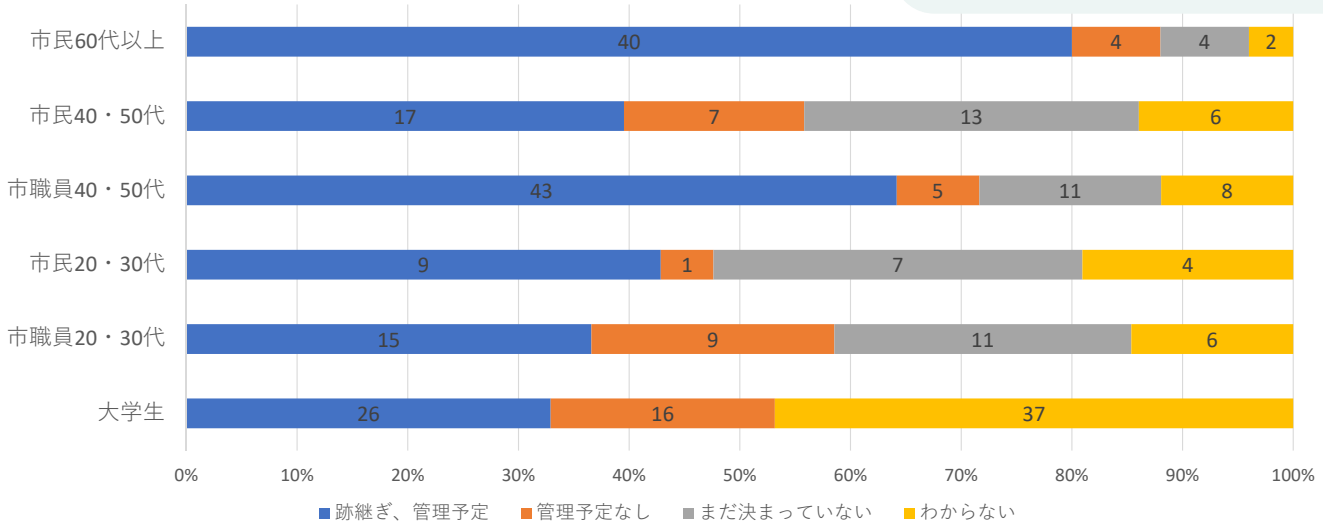
年齢が高いほど、自分が入る予定のお墓の世話を自分でしている。



※グラフ内の数字は人数

自分が入るお墓を管理する予定か

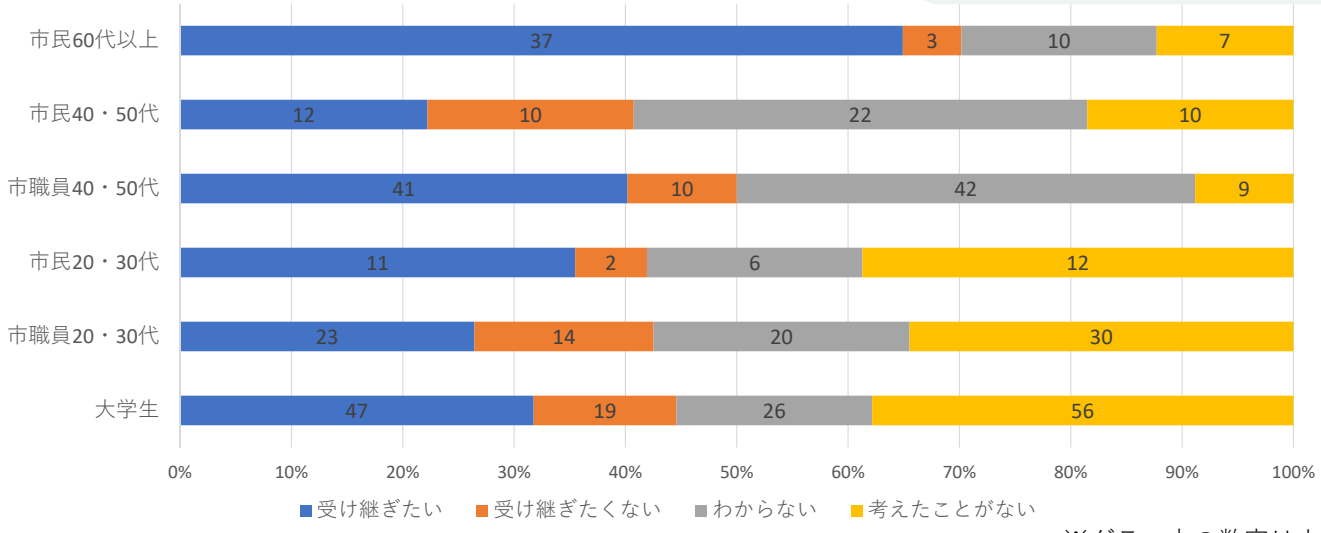
跡継ぎ、管理予定者の割合は
属性によってばらつきがある。
・市職員40・50代、市民60代以上
の多くが管理する予定がある。
→50、60代がおおよそ墓守になる
時期の目安か



※グラフ内の数字は人数

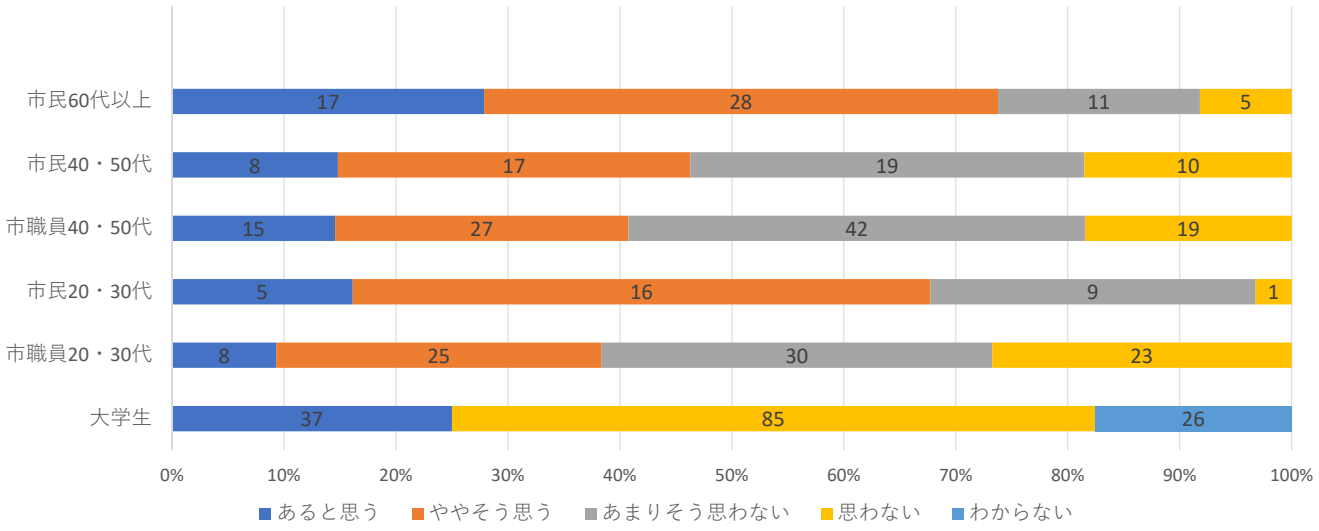
お墓を受け継ぐことについてどう思うか

全体的に「わからない」、
「考えたことがない」多い。
市民60代以上で最も「受け継ぎたい」
の割合が高い。
しかし、大学生や20・30代の若い層
も「受け継ぎたい」が「受け継ぎた
くない」を上回る。



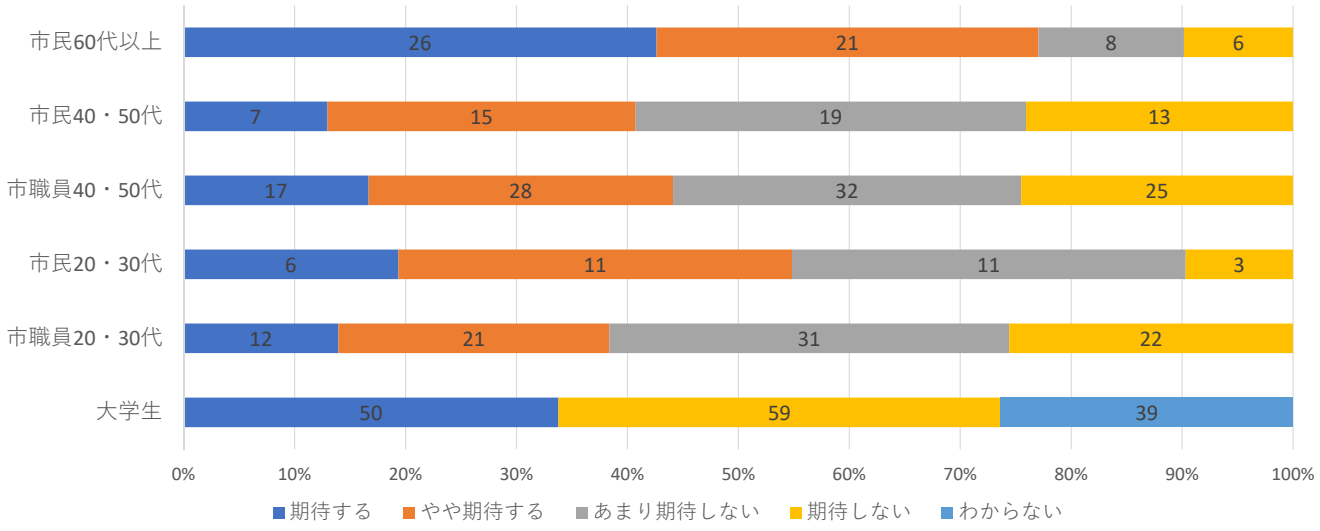
※グラフ内の数字は人数

あなたの子孫がお墓を受け継ぐ義務があるか



※グラフ内の数字は人数

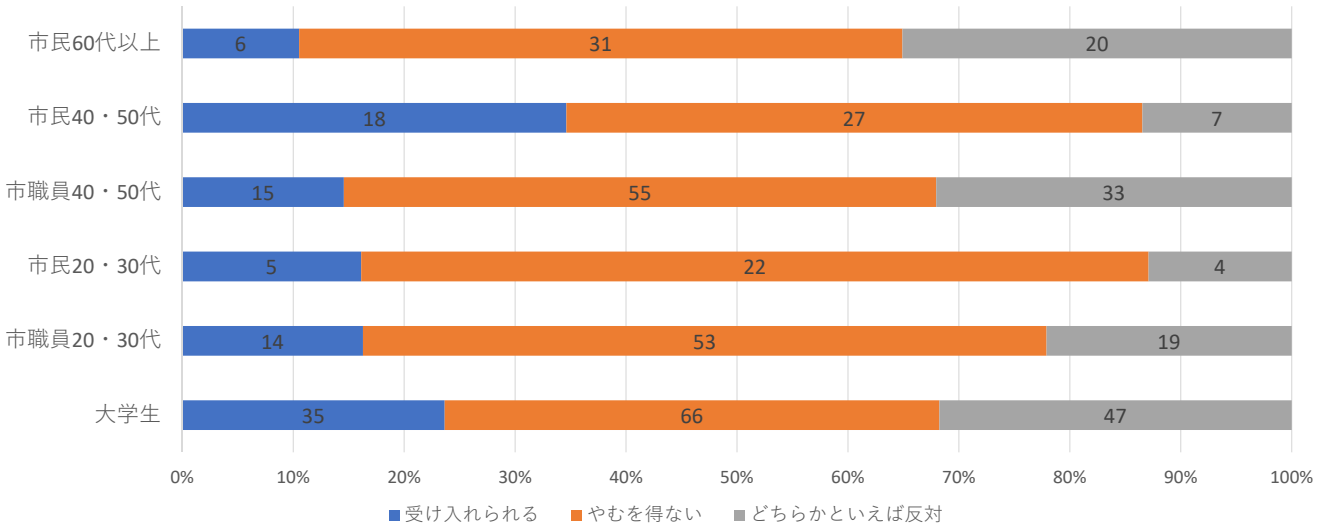
あなたの子孫がお墓を受け継ぐことを期待するか



※グラフ内の数字は人数

有期限墓（墓地の使用を15年、20年などで限ること）をどう思うか

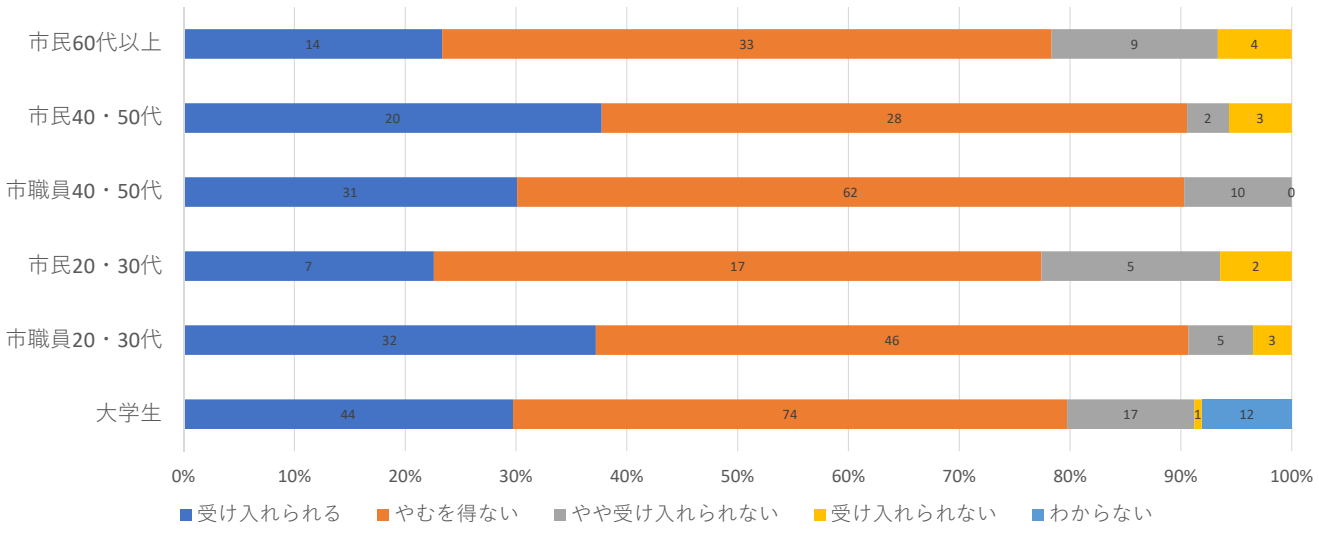
どの属性も「やむを得ない」が最も多い。
どの年代にも受容がみられるが、時代背景の考慮が必要。



※グラフ内の数字は人数

お墓を閉じること（受け継がなくてもいいようにすること）をどう思うか

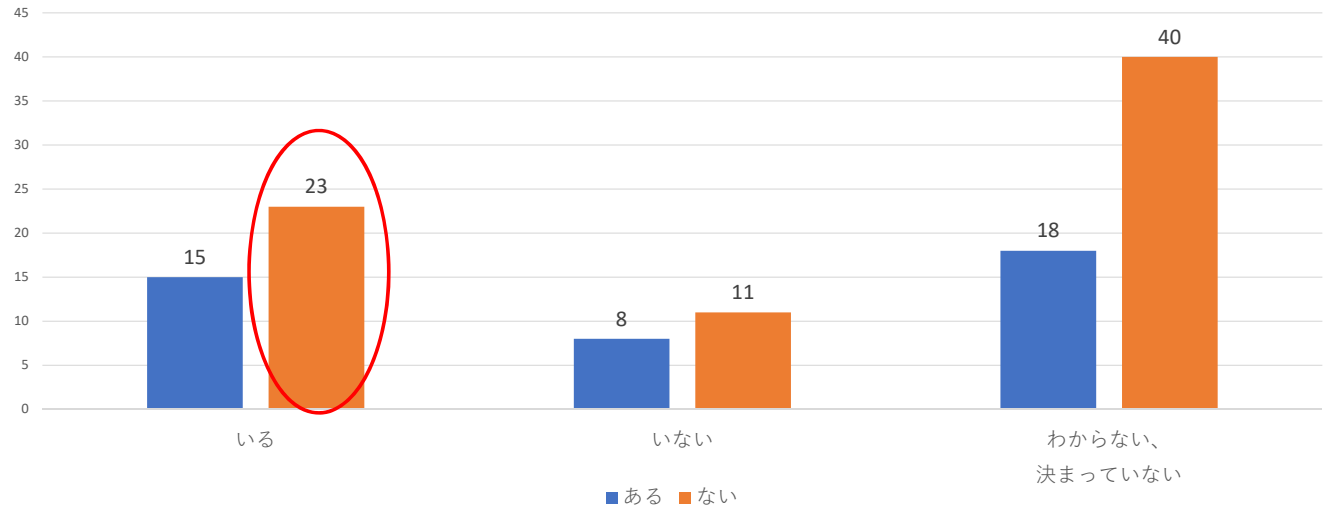
どの年代も「やむを得ない」が最も多い。



※グラフ内の数字は人数

お墓の受け継ぎについて家族と話し合ったことがあるか
×
自分の入るお墓に承継者はいるか
（市職員）

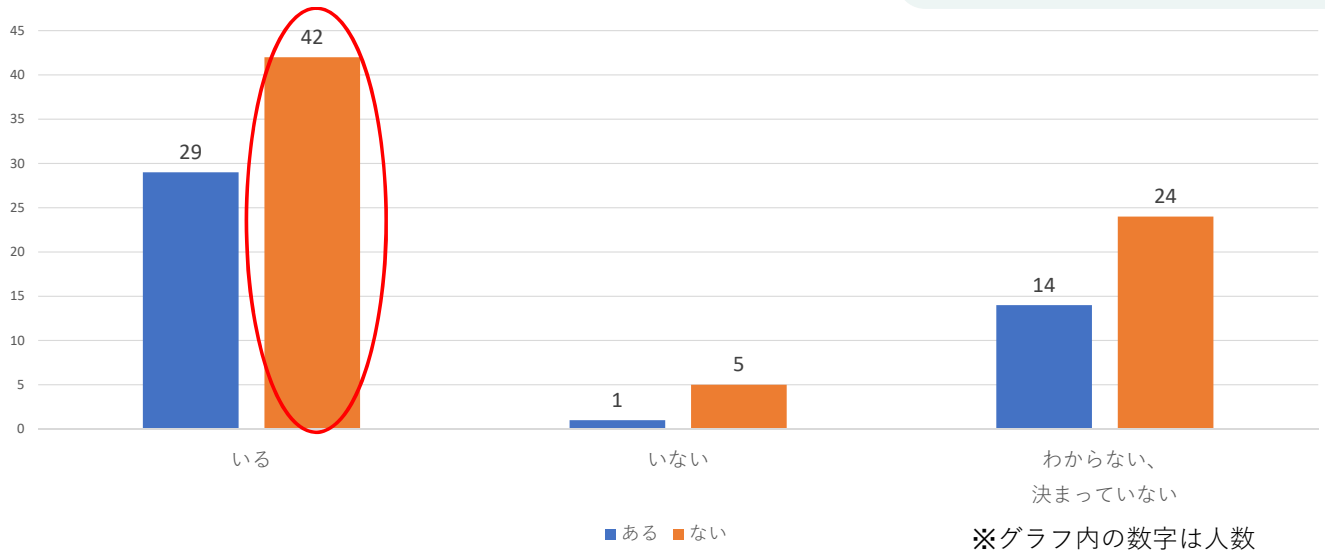
話し合いの経験の有無に関わらず「わからない、決まっていない」が多い。



※グラフ内の数字は人数

お墓の受け継ぎについて家族と話し合ったことがあるか
×
自分の入るお墓に承継者はいるか
（市民）

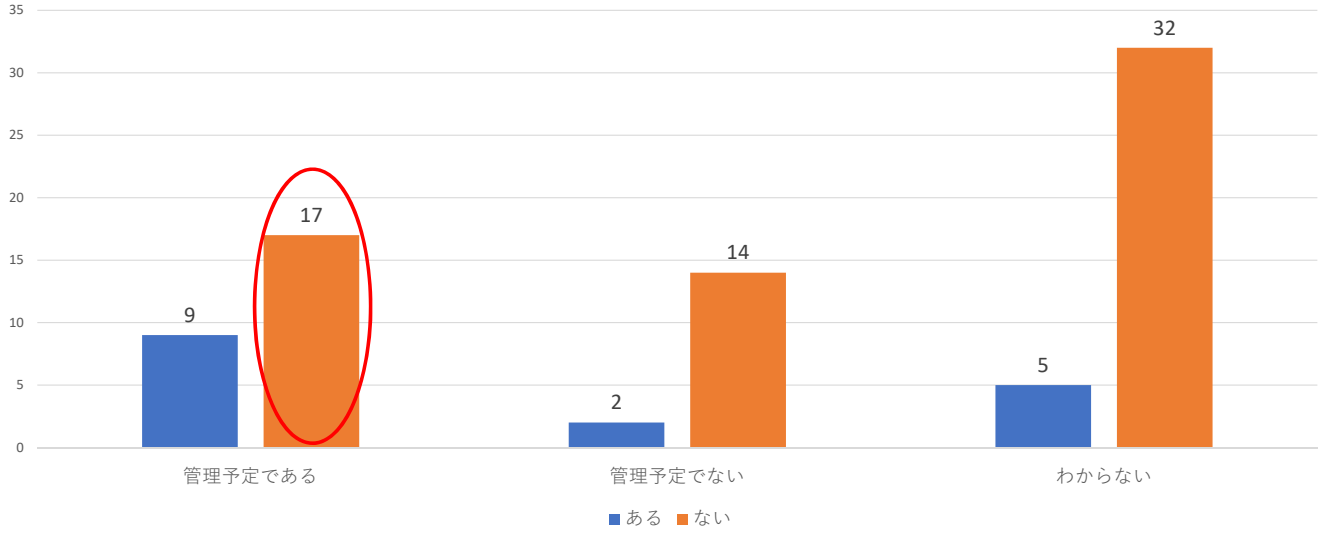
話し合いの経験が「ない」と答えた人の方が、承継者が「いる」。
→この傾向が市民ではより顕著



※グラフ内の数字は人数

お墓の受け継ぎについて家族と話し合ったことがあるか
×
将来お墓を管理する予定か
(大学生)

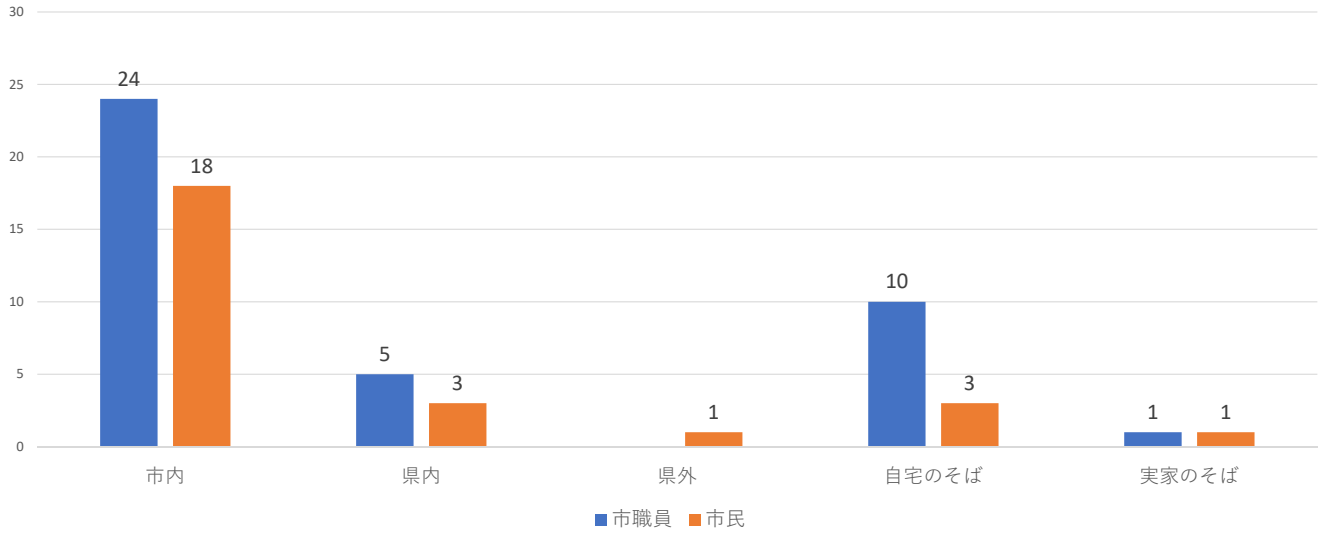
話し合いの経験の有無に関わらず「わからない、決まっていない」が多い。



※グラフ内の数字は人数

お墓をどこに取得したいか
（「取得したい」と答えた人のみ回答、複数回答）

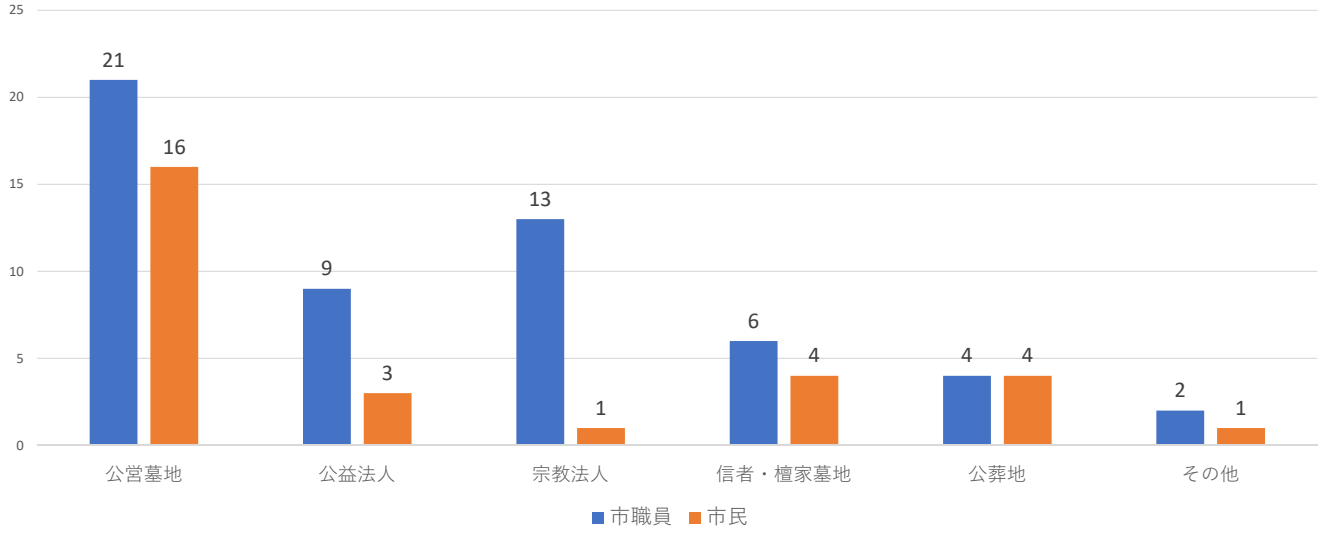
アクセスのしやすさ



※グラフ内の数字は人数

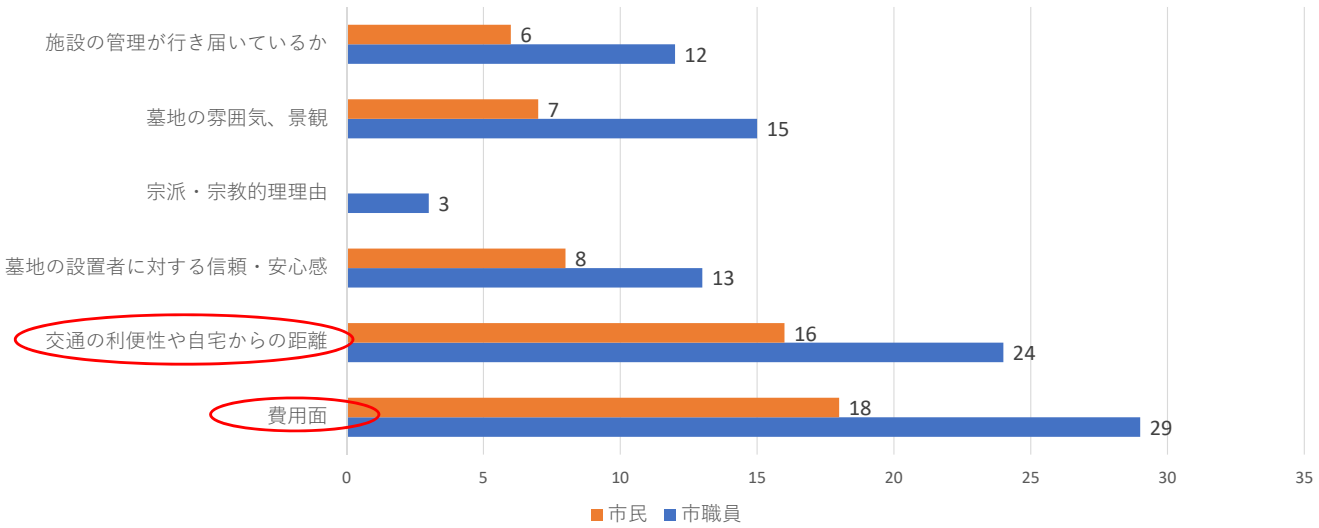
取得したいお墓の管理形態
（「取得したい」と答えた人のみ回答、複数回答）

費用の手頃さ、
従来型のお墓のかたち
がのぞまれている。



※グラフ内の数字は人数

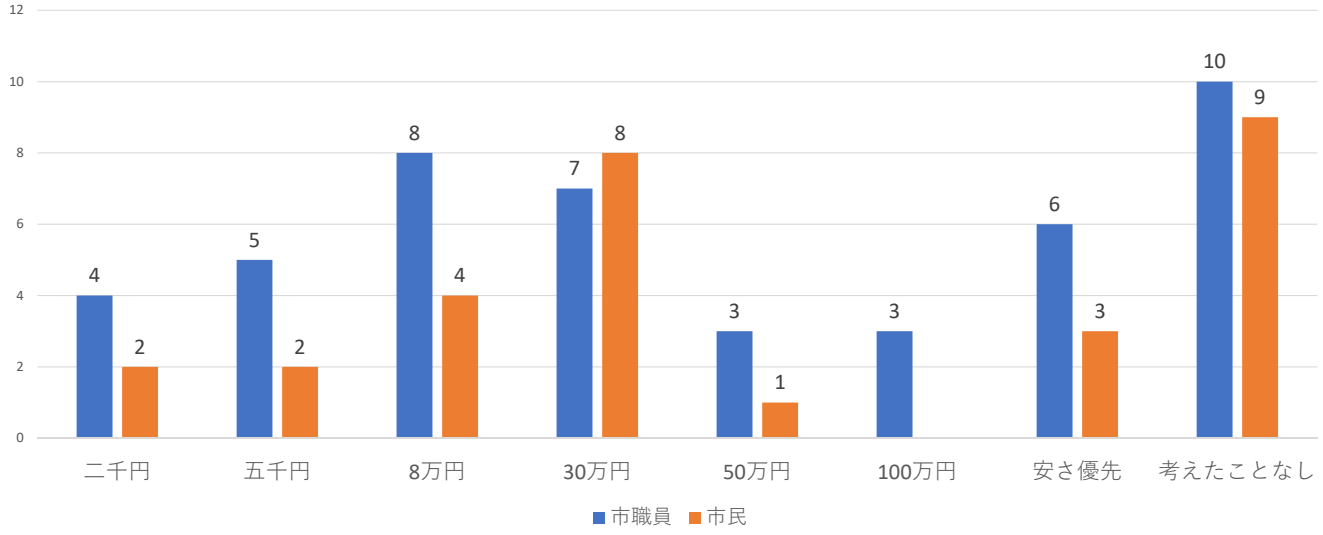
お墓を取得するときに重視するもの
（「取得したい」と答えた人のみ回答、複数回答）



※グラフ内の数字は人数

お墓を取得してもいいと思える費用
（「取得したい」と答えた人のみ回答、複数回答）

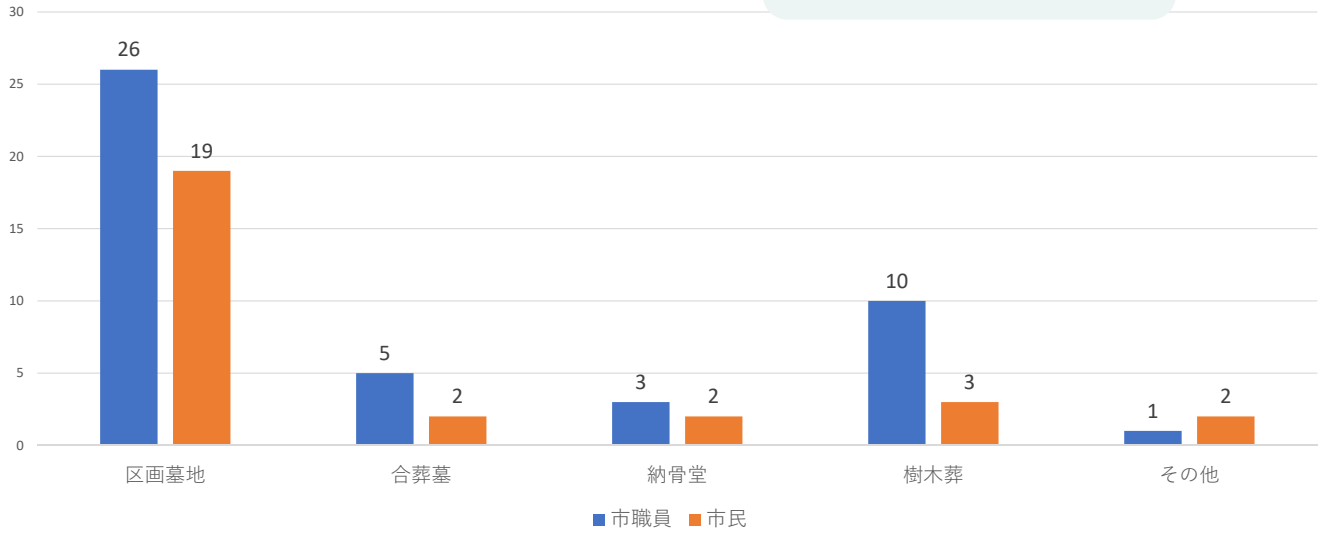
費用の手頃さが
のぞまれている。



※グラフ内の数字は人数

取得したいお墓の形態
（「取得したい」と答えた人のみ回答、複数回答）

従来型のお墓のかたち
樹木葬が注目を集めてい
る。

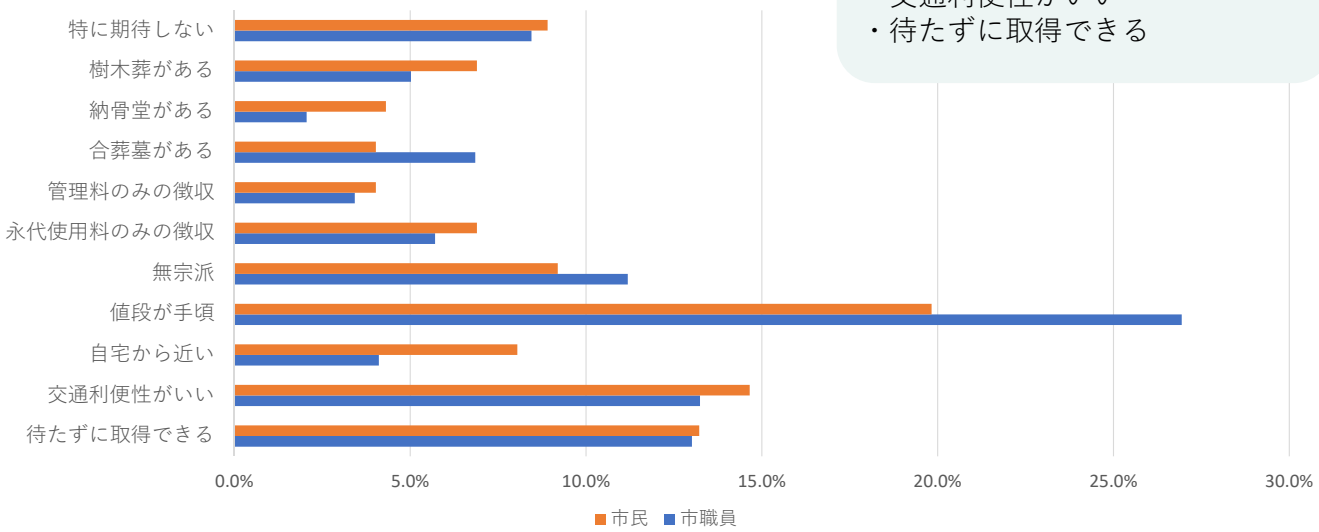


※グラフ内の数字は人数

市営墓園に期待すること

市営墓園に期待することベスト3

・値段が手頃である
・交通利便性がいい
・待たずに取得できる



自由記述を一部抜粋

次世代に負担をかけたくない

・地域の過疎化がすでに包っており、少子化もあり、将来墓の形はずいぶん変わってゆくと思う。自分の両親くらいはなんとか守りたいと思うが、自分が高齢になったら、それもできなくなるだろう。自分の力に見合った葬儀と、子達に負担をかけたくないと思う。墓に対して興味はない。死んだあとのことに関心がなかった。残された人にとってやっかいなものにならないでほしい。

・ 自分の思い（散骨や合葬）はあるけれど、現実的に死んだあと残されたものに迷惑はかけたくない（ので41、42は答えにくいです）婚家に墓があるのでどうするか配偶者と話をしています。

・70代の私にとってお墓は代々家の後継ぎが守るという習わしでそうあるべき、又そうしなければならないという義務感で過ごして来ましたが、これからの時代はお墓や先祖供養の仕方等を次世代の流れや考え方によって決まっていくのではないでしょうか。

お墓の多様性

・墓守を継ぐ人がいなくなっても、人様に迷惑をかけないこと。誰もが死ぬので、そのお骨をどうするかという話題は避けて通れず、また墓を継ぐ人がいないという問題を抱えている人も多い。ぜひとも公営の合葬墓を整備していただきたい！

・私は現在30歳でお墓について深く考えたことはありませんでしたが、自分の親や祖父母のお墓のあり方によって自分の考えも定まってくると思います。母方の祖父母のお墓を後継ぎがいないので、合葬墓（共同墓地）は今後選択肢の1つになると思いました。

・骨を持ち帰らずにすむように完全に灰にすることも検討してほしい。

・樹木葬か、海への散骨を希望。

・非常に個人的なことで、多様性が必要である。

社会全体の問題

- 生涯独身者や子供・身よりのない人間がどのように死後の準備をしていくのが好ましいか、個人だけではなく社会全体で考える必要があると考えます。
- 少子高齢化とともに墓の維持の在り方について、しっかりと考えていかなければならないと思いました。

家や個人のお墓問題

- 実家の墓がせっかくあるのに、娘2人は私を含め嫁に出てしまったので、引き継げず無念な気持ちがあります。次男なので自分はどこの墓に入るのだろうとお盆の時期によく考えていました。生前から墓や埋葬について家族で話しあっておくことが必要だと思う。
- 分類は分かりませんが、家族と同じ所に入りたいです。
- 妻だから夫の墓に入らなければならないという昔からの考えから、自分の望む墓に入ることができる（例えば両親の墓）ようだと良い。手続き等の面倒くささがない方法だと助かる。

生きている人にまかせたい

- 死んでしまったらどう埋葬されようと自分には分からないので、どういう形で埋葬するかは生きている人達で決めてくれればそれでいいな、とも思います。
- 今は、居住地が変わる人も多く、生きている人の方が大切だと思うので、特に思いや考えはありません。形見があれば、散骨でよいです。

本人の意思を尊重したい

- 私の祖母は生前、親族に相談せず、入りたい墓地の一区画を購入していた。今後、親族が亡くなることがあれば、墓地選びや入るお墓は、本人の希望に沿いたいと思う。

その他

- 今までいた所が遠くまたお寺さんとも意見があわず、墓じまいをして市内の近所にお墓をたてました。今後子供たちが見守ってくれればと思います。
- 自分の墓や埋葬については、生きている今しか、家族に伝えられないため、今から準備をしなくてはいけないとは思うが、どのような対策を取るべきか具体的な事を知る事が必要なのではないかと考えます。
- お墓の種類を知らないので、知る機会や特徴を知りたい。

結果からわかること

- 年齢が高い方は従来のお墓のありかたを希望している
- 40・50代や若年層も、受け継ぎたい想いや、自分が入るお墓の存続を期待

→気持ちはあっても、実際に受け継いでいくことの困難さも感じている

- これまでは、暗黙の了解によって承継者が決まっている可能性

→これからはしっかりとお墓をどうしていくか話し合いが必要なのでは

- お墓は従来通りのかたち、アクセスのしやすさ、値段が手頃なことがのぞまれている
- その一方で、合葬式共同墓や納骨堂も市民はのぞんでいる
- 多様なお墓のありかたをのぞむ声も

盛岡市民の希望

従来通りの
お墓のありかた
・受け継ぎの義務感、期待感、希望
・区画墓地

・アクセスのしやすさ
・取得のしやすさ
・値段の手頃さ
・待たずに取得できる

多様な
お墓のありかた
・有期限墓
・合葬式共同墓
・樹木葬への関心
・散骨

盛岡市民の意識

次世代に
むけて

「家」や
「個人」の状況

社会問題
・少子高齢社会
・人口の流動

お墓への思い
・先祖供養
・個人を偲ぶ

まとめ

- 現在の盛岡市民は、従来通りのお墓のありかたを望み、先祖供養や故人を偲ぶためのお墓にアクセスがしやすいこと、新たに取得しやすいことが重要であると考えている。

- その一方、次世代や必要とする人たちのために多様なお墓のかたちが必要だと感じている。

謝辞

今回、調査票への回答にご協力くださった皆様、調査票の内容の検討や配布・回収にご尽力いただいた盛岡市保健福祉部企画総務課の今泉潤さま、向田瑠夏さま、佐々木一憲さま、指導教員である竹村祥子教授、そのほか調査を進めるにあたりご協力くださいました多くの方々に、深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。